

文化・芸術



「ウィリアム・シェークスピア 『テンペスト』」展示風景

マルク・シャガール (1887~1985年)

「嵐」を意味する「テンペスト」は、シェークスピアが晩年に手がけたロマンズ劇の一つで、画家や挿絵画家の想像力をかきたてた作品でもあります。主人公プロスペローは弟らの策略によりミラノ公の地位を追われ、幼い娘ミランダとともに絶海の孤島に流されます。時を経て、島の近くに弟ら一行の船が現れ、プロスペローは魔術と島の妖精の力で大嵐を起こし、復讐（ふくしゅう）を果たすというストーリーです。本作はシャガール晩年の挿絵作品。とりわけ

「嵐」を意味する「テンペスト」は、シェークスピアが晩年に手がけたロマンズ劇の一つで、画家や挿絵画家の想像力をかきたてた作品でもあります。主人公プロスペローは弟らの策略によりミラノ公の地位を追われ、幼い娘ミランダとともに絶海の孤島に流されます。時を経て、島の近くに弟ら一行の船が現れ、プロスペローは魔術と島の妖精の力で大嵐を起こし、復讐（ふくしゅう）を果たすというストーリーです。本作はシャガール晩年の挿絵作品。とりわけ

移動大川美術館展「物語をえがく
—文学と版画の世界—」から

《名画の扉》

(大谷)